

大きい家 18.2.19

家は大きい方がいい！と言うが、今と昔は状況が違ってきています。

総務省の平成 25 年度・住宅土地統計調査による平均一戸あたりの延べ面積の都道府県比較リストによると、32坪で各県の平均値でこういう数字になっています。(私が計算した数字)

一方、各国の戸建住宅の平均床面積は平成 15 年の資料によると次のようです。

アメリカ：148m²(45坪) イギリス：87m²(26坪) フランス：99m²(30坪) ドイツ：95m²(29坪)

とありました。

年代のデータによっては、多少差があるようですが、日本が、うさぎ小屋のようで小さい家だと昔言われたことがありましたが、いま欧米の国と比較して特に小さいとはいえないようです。

私が設計した大きな家は？と考えると2世帯住宅で約60坪～90坪。核家族での家は？ Tさんの家で52坪。この家は、家族3人ですが、書斎とアトリエを持つ家となっています。さらに大きいKさんの家は80坪ほどでパブリックとファミリーの居間に趣味の部屋があり家族4人での広い家になっています。



Tさんの家



Kさんの家

海外の建築家が設計した代表的住宅の面積のことは念頭になかったのですが、どうなのかをチェックしてみました。

●ル・コルビュジエが設計したフランスサボア邸は、パリ郊外のポワシーにある近代建築の住宅。1931年竣工。

延べ床面積 492m² (148坪) ←面積の数字は、フランスの建築家・ル・コルビュジエの作品で“サヴォア邸”がありま...のサイトより



サボア邸

●アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが設計した落水荘（英語：Fallingwater）は、1935年ペンシルベニア州のピッツバーグに作られた。268 m² (屋内)、227 m² (テラス)

↑数字は、世界唯一？滝の上に建てられた別荘「落水荘」米ペンシルベニア州 写真4...のサイトより

どちらも桁外れに大きい建物ですねー。



落水荘

では、日本の標準的な家は？国交省の資料では、誘導居住面積水準として、一般型では125m² (4人) で都市居住型 95m² (4人) といっています。

一般論として大きい家のメリットは、見栄えがする、空間が広くのびのびする、部屋数が多くいろんな使い方が可能。一方デメリットとして、メンテナンス費、水道光熱費、税金、掃除、が掛かり、経済的にも労力にも余裕がある必要があります。

大きい家を望むのは、一つは封建制度の影響でしょうが今は合理的機能的な生活が望ましいという感覚となっています。逆に小さい家で暮らすことを目指す考えもある訳です。(前回・参照) ※ (サボア邸と落水荘の写真はウィキペディアより)